

八代活性化 買い物で支援

イオン九州など市と協定

寄付つき電子マネー

県内自治体初

流通大手イオングループのイオン九州（福岡市）、マックスバリュ九州（同）は21日、八代市と地域振興に関する協定を結び、利用額の0・1%を市に寄付する電子マネー「ICカード」やつしろがめさんWAON（ワオン）」を発行した。県内自治体との連携は初めて。

寄付金は同グループが負担。市の文化振興や地域活性化に使う。カードは八代妙見祭の亀蛇（通称ガメ）を描いた。全国のイオンやマックスバリュの店舗など約11万2千カ所で行う。初年度は3万枚の発行を目指す。120万円の寄付金を見込む。

市役所で調印式があり、イオン九州の岡澤正章社長やマックスバリュ九州の柴田英二社長、福島和敏市長が出席。地産地消の推進や特産品の販売促進など11項目の協定

書に調印した。福島市長は「協定は市の発展に寄与する。寄付金は妙見祭振興などに生かしたい」と述べた。イオングループは全国で同様のカードを発行しており、37枚目。県内では阿蘇草原再生募金に寄付する「阿蘇千年の草原WAON（ワオン）」がある。22日は同市沖町のイオン八代ショッピングセンターでセレモニーを行い、新カード発行をPRする。

（長野希美）



八代市役所で協定書に調印する（右から）イオン九州の岡澤正章社長、福島和敏市長、マックスバリュ九州の柴田英二社長



電子マネーICカード「やつしろがめさんWAON」